

SATZのテーマ

SATZ 作曲
演奏 SATZ

雪

流石庵羽積 作詞 / 峰崎勾当 作曲
歌・三弦 藤本昭子
尺八 善養寺恵介

沼津

近松半二・近松加作共作「伊賀越道中双六」
六段目「沼津の段」より
胡弓 高橋翠秋
太棹三味線 鶴澤津賀寿

阿波祈禱文

野上彰 作詞 / SATZ 作曲
演奏 SATZ

SATZ

TAKAHASHI SUISHU
FUJIMOTO AKIKO
ZENYOJI KEISUKE
TSURUZAWA TSUGAJU

ザッツ

第3回公演



胡弓
高橋翠秋



歌・三弦
藤本昭子



太棹三味線
鶴澤津賀寿



尺八
善養寺恵介

2023.

12/24(金) 14時開演 (13時30分開場)
紀尾井小ホール

- 入場料[全指定席]: 5,000円
- チケットお問合せ・お申し込み:
SATZ事務局(藤本方) mail: akikof@tc4.so-net.ne.jp / fax: 03-3716-2110
- 主催: SATZ ●後援: 公益財団法人 日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

「ここに届く音楽を——

終わらない戦争。止まらない新型コロナ。前例ない異常気象、円安、物価高…。

いったい何故こんなことになってしまったのでしょうか。

夏目漱石は名著『草枕』に、「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」と記しました。けれども考えることを止め、感じるころまで塞いでしまっても良いのでしょうか。有名なこの独白に続き、山路を登る主人公に漱石は次のように語らせます。「住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもなく、向う三軒両隣のただの人。人の世が住みにくければ、どれほどか寛容^{くわんりやう}けて、東の間の命を住みよくせねばならぬ。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故ゆえに尊い。それが詩である、画である。あるいは音楽と彫刻であり、そこに詩も生き、歌も湧く…」

今回のSATZは「ひとのころ」をテーマに、地歌名曲「雪」、肉親の情を描く義太夫「沼津」、野上彰の反戦詩「阿波祈禱文」を取り上げ、いずれもSATZ新アレンジでお贈りします。

さあ、クリスマスもジングルベルもケーキも、除夜の鐘も正月も初詣もおせちもお雑煮も…SATZを聴いてから迎えましょう!

S 高橋 翠秋 (たかはし・すいしゅう) [胡弓]

1962年生田流箏曲家元、川瀬白秋に入門。68年師範免状取得、高橋翠秋の名を許され、師と共に歌舞伎黒御簾、舞踊界、三曲界で演奏活動を行い現在に至る。93年国立劇場主催公演「明日をになう舞踊、邦楽鑑賞会」に出演。94年より「新・日本音楽抄」に創作を発表。98年初りサイトル「高橋翠秋 胡弓の菜」開催(以後毎年開催)。2010年文化庁芸術祭優秀賞受賞。13年第2回中島勝祐創作賞受賞。17年CDアルバム「胡弓の菜 一月詠抄」が文化庁芸術祭優秀賞受賞。18年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。カンヌ音楽祭など海外公演も多数行っている。現在、日本芸術文化振興会歌舞伎音楽(竹本)研修講師、(公社)日本三曲協会会員、荒川邦楽連盟理事。作曲作品に「櫻姫」(第2回中島勝祐創作賞)、「雪月花」「舞姫」「ひな流し」「幻」「ひなの宵」のほか、舞踊曲、胡弓練習曲・小曲等多数。

A 藤本 昭子 (ふじもと・あきこ) [歌・三弦・箏]

九州系地歌箏曲演奏家。祖母阿部桂子、母藤井久仁江(人間国宝)に箏・三弦を師事。1995年第1回サイトル開催(全17回開催)。2001年「地歌ライブ」開始(全100回開催)。03年日本伝統文化振興財団賞受賞。08年全英語解説による「JIUTA」公演開始(全6回開催)。伝統文化ポーラ賞奨励賞受賞。20年邦楽ジャーナル誌「地歌のいろは」連載。YouTubeチャンネル開設(全101本公開中)。長谷幸輝検校遺愛の三弦を初披露演奏。「藤本昭子の会」設立。21年紫綬褒章受賞。文化庁芸術選奨文部科学大臣賞、松尾芸能賞優秀賞、文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞。21年、22年CD「雪墨」「地歌のいろは」がレコード部門大賞を連続受賞。22年新シリーズ公演「伝承の力 古典の現在」を開始。現在、(公財)日本伝統文化振興財団理事。(公社)日本三曲協会、箏曲女流協会会員。正派音楽院講師。「藤本昭子の会」代表。

T 鶴澤 津賀寿 (つるざわ・つがじゅ) [太棹三味線/人間国宝]

1984年竹本駒之助に入門。三味線を四代目野澤錦糸に師事。86年駒之助の義母鶴澤三生の幼名津賀寿を継ぎ初舞台。鶴澤重輝の預かり弟子となる。90年国立劇場主催「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」出演。91年芸団協助成新人奨励賞受賞。花組芝居「怪誕身毒丸」出演。93年豊澤仙廣賞、96年第47回芸術選奨文部大臣賞新人賞、97年第11回清栄会奨励賞、2000年第4回ビクター伝統文化振興財団賞受賞。09年重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。国立劇場養成課竹本研修講師。13年義太夫協会理事就任。16年、自身初主催公演「津賀寿の会」を開催。22年ENEOS音楽賞受賞、重要無形文化財「義太夫節三味線」個人指定保持者認定(人間国宝)。

Z 善養寺 恵介 (ぜんようじ・けいすけ) [尺八]

6歳より、虚無僧尺八の手ほどきをうける。東京藝術大学邦楽科卒業、同大学院修士課程修了。在学中は山口五郎師(人間国宝)に師事。1999年第1回サイトルを開催以来、現在に至るまで15回を重ね、2017年文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞。2000年尺八教則本「はじめての尺八」(音楽之友社刊)執筆。02年日本伝統文化振興財団賞受賞。同年世界宗教者国際会議(於カンタベリー大聖堂)にて招待演奏。18年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。20年紫綬褒章受賞。東京藝術大学および有明教育芸術短期大学の非常勤講師を経て、古典を中心とした演奏活動のほか、関東各地にて尺八普及のための尺八教授活動を行っている。

[公式web site] <http://zenyoji.jp/>



SATZは、邦楽ジャンルの壁を飛び越えた演奏家四人のユニットです。メンバーのイニシャル「S」翠秋(胡弓)、A藤本昭子(地歌)、T津賀寿(義太夫三味線)、Z善養寺(尺八)を並べて眺めると、それがドイツの音楽用語の「SATZ」となることに気づいた時は心がちよつと小躍りしました。日本の音楽シーンでもよく耳にする「アインザッツ」は音楽の「楽章の始まり」という意味で、また「SATZ」という単語には「跳躍」「踏み出し」、「定理」などの意を含むことを知り、四人がこれから企てる新しい活動の希望と意義を示している思いがして、我々のユニットの名前としました。

それぞれ異なるジャンルで活動を重ねるメンバー四人は、この言葉が示す意味を踏まえ、古典の伝承に立脚した「新たな邦楽創造」への果敢なチャレンジを目標としています。

悠久の歳月を超え、ひとすじの美しい糸のように途切れることなく培われ、育まれ、熟成され、幾世紀を経て今なお聴く者すべての心を捉えて離さない、そんな力を秘めているのが古典音楽だと信じています。繊細に仕上げてきた時に大胆に、人の心の宇宙を縦横無尽に駆け巡る、偉大な伝統音楽への畏敬の念を胸に秘め、私達の「今」を語る、豊かな表現を皆様にお届けします。